

対象年度		令和 2年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート									
事務事業名		結城蔵美館運営事業						予算事業名		結城蔵美館運営経費			
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令				
				07	01	05	1501	経常経費					
総合計画体系		3歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)							事業の区分		主要事業		
		3-4地域資源を活用してにぎわいと交流を促進する観光の振興(観											
		①地域資源を活用した観光の振興							担当課係等		商工観光課 観光係		
2交流拠点の形成													
事業期間		継続 (平成26年度～ 年度)											
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】					
本市の歴史・芸術文化の情報発信拠点として観光振興の一翼を担う。								平成24年度に見世蔵が市に寄贈され、芸術作品や歴史資料の展示施設として改修し、平成26年度に「結城蔵美館」として開館した。					
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】								【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】					
本蔵における本市ゆかりの芸術家の作品展、袖蔵における本市の歴史文化資料の公開という形式が完成している。 2019年度より、本市及び近隣市町にゆかりのある作家へと範囲を拡大し、幅広い分野で芸術作品を展示していく。								観光客及び市民					
								【事業をとりまく環境の変化】 市全体としての観光振興を図るうえで民間施設とのすみわけが重要になっている。					
【令和 2年度 事業内容】				【令和 3年度 事業内容】				【令和 4年度 事業内容】					
商業観光振興計画に基づく事業展開。				商業観光振興計画に基づく事業展開。				商業観光振興計画に基づく事業展開。					

■事業費

		H30年度	R01年度			
財源内訳	国庫支出金	0	0			
	県支出金	0	0			
	地方債	0	0			
	その他の	0	0			
	一般財源	1,207	3,193			
歳入計(千円)		1,207	3,193			
歳出内訳	節(番号+名称)	金額(千円)	金額(千円)			
	11 需用費	572	988			
	12 役務費	139	139			
	13 委託料	244	1,748			
	14 使用料及び賃借料	252	252			
	18 備品購入費	0	66			
歳出計(千円)(A)		1,207	3,193			
伸び率(%)			164.54			
備考	総合計画106ページ 予算書 133ページ					

平成30年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H30年度	R01年度	R02年度
活動 指標	開館日数	日	目標	307.00	307.00	307.00
	基本開館日数を307日（365日－（週休52日＋年末年始休6日））と定義		実績	306.00	0.00	0.00
	展示作家数	組	目標	12.00	12.00	12.00
	市の企画展（ひな祭り等）を除く		実績	12.00	0.00	0.00
成果 指標	来館者数	人	目標	19,000.00	25,000.00	20,000.00
	御手杵の櫓を含む展示物の見学及び企画展の鑑賞を目的に訪れた者の人数		実績	19,083.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	5周年を迎え、市民からの認知度もあがり、イベントに際しても県内外からの集客をあげている。
妥当性	実施主体の妥当性	C 見直す必要がある	蔵美館に館長をおいて責務をもたせたい。
	手段の妥当性	C 見直す必要がある	結城蔵美館の位置づけとしては美術館ではなく店舗施設であるが、市民の芸術的意識を高めるため、作家選定において学芸員を専任若しくは兼任でおけるとよい。
効率性	コストの効率性・人員効率	C 改善の余地はある	再任用職員と臨時職員のバランス
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	
進捗度	事業の進捗	A 順調である	
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
作家選定から予算執行まで、責任の持てる職員を配置したい。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
貴重な観光資源であるとなし、商業観光振興計画に沿って、「稼げる観光」を目指し、集客を見込め、かつ作品販売で収益を得られる作家の選定を行っていききたい。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了	
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 本蔵については、今年度から展示作家を近隣自治体にまで広げたので、新たな作家の展示が可能となった。袖蔵は常設展示とはいえ大本営については、次の展示物を検討する。また、企画展については、出土品などの専門的なものではなく、中世や近世のなじみやすい企画展を考える。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。	